



マスコットマークデザイン
塚田堂鬼さん(薄根町)

心の健康と文化を
夢を届ける移動図書館

自然環境に恵まれた沼田がこれからの時代に求められることは、心の健康や文化といった精神的に質の高いまちづくりといえるでしょう。

図書館のマスコットマークは、森をイメージしたさまざまな動物たちと、夢や希望を持って大きな空をかけ巡る少年。移動図書館で出会った本の世界へと導かれ、どんな風に旅立つのかを想像すると、とてもワクワクする光景が目浮かびます。人が集まる場所からは文化も生まれます。屋外の開放的な空間で語り合える場でもあり、コミュニケーションが新たな価値の創造や発展につながります。

心の健康と文化の融合を合わせ持った移動図書館が、これからも多くの人に夢や希望を届けていくことを期待しています。



巡回終了後、図書館へ



主に午前中は地域の施設、午後は小学校などを巡回



主な登場人物



移動図書館のベテラン
人付き合いが得意

移動図書館歴6年
阿部尚代さん(上原町)



温和で優しい
料理や健康本が好き

移動図書館歴3年
齋藤佳子さん(横塚町)



気さくで子どもが好き
趣味はテニス

運転手歴11カ月
関八郎さん(沼須町)

漫画風コマ割で楽しもう

笑顔あふれるステーション

あかつき号の1日



「あかつき号」は朝、本を積み込み、一日に4〜5のステーションを巡回、夕方に戻り返却処理や車両の掃除などで終了します。「今日はどんな人が来てくれるのだろう」と利用者を楽しそうに本を選ぶ姿を思い浮かべながら積みこむ時間が好きだと、阿部さんと齋藤さんは言います。

ステーションに到着し、運転手の関さんが車を広げると、皆ワクワクしながら本を選びます。関さんは「子どもの笑い声は元気が出るね」とほほ笑みます。

インターネットが普及し、ワンクリックでの注文や電子書籍で手軽に読めるなど、形式にとらわれないで読書ができるようになりました。その中で、じかに本に触れて読みたいと願う地域の人々に寄り添う移動図書館の役割は、これからの暮らしに価値のあるものになっていくのではないのでしょうか。

読書で充実したコロナ禍を

1回に借りられる本は1人10冊。以前は7冊でしたが、コロナ禍で充実した読書生活ができるように増やしたといえます。車両内での利用者は2〜3人と制限し、密にならないように呼び掛けるなど、感染リスクの低減を図っています。外出自粛の中で、巡回先では待ち遠しく一足先に待つ人や、孫や子どものために借りる人の光景も見られます。